

<提 言>

(1) 人間主権の「住宅基本法」の制定

(2) 悪法の建築基準法を廃棄

(3) 100年住宅で個人経済を豊かにし、良き家族制度を復活させる

12月1日、安倍官房長官に上記の提言書を送付しました。その要旨をシリーズで報告します。さて、戦後60年、欧米の生活者に比べて真の豊かさが実感できないのはなぜなのか。生涯ローンに終始し、住環境の貧しさに起因しているのです。私は、「住まい」に対する関心の低さが原因だと考えています。「衣食足りて礼節を知る」と言われてきましたが、問題の根源がここにもあったのです。私は「衣食足りて「住貧」を知る」と言ってきました。すなわち「住」が忘れられてきたのです。

(1) 人間主権の「住宅基本法」の制定23

☆「人は住まいを造り、住まいはそこに住む人を創る」 W・チャーチル

国家のリーダーは、住まいの重要性を認識し、高邁な理念や哲学に基づき、国民の健康と幸せを、基盤に据えてもらいたいのです。戦後の住宅政策の貧困から、今の多くの社会問題が派生してきたと思っています。漸く住宅5カ年計画を廃止し、量から質への転換を今年から検討するという。20年も前に戸数が世帯数を超えていたのに余りにも遅い。国は低質な住宅を造り続けてきたし、住宅産業界も粗悪品で命や健康を脅かし、ローンが終わる前に建て替えなければならない短命住宅で利益を上げてきた。日本の住宅は次の“五重苦”であると言ってもいい。

1. シックハウス&シックスクール
2. コンクリート・ストレス
3. 断熱④結露⑤騒音(嫌音)による苦しみです。

また、海外から住宅ではなく「獣宅」と揶揄されてきたのです。住まいとは「人生の基地」いい家とは「住み心地のいい家」と定義しました。安心・安全・快適・長持ちが、キーワードです。

これが理想ではなく、当たり前の住環境でありたいのです。私は従来から「住宅基本法」が存在しないからだ主張してまいりました。従来の住宅政策は、経済動向の道具に使うのみでした。為政者として、住まいの重要性の欠如が貧困の元凶だと考えるからです。一日も早く、人間主権の「住宅基本法」が制定される事を祈って止まない。

☆耐震偽装事件

行政の問題に関して、多くの建築基準法に矛盾点や間違いが余りにも多い。講座で詳細を指摘していますが、業界擁護が問題なのです。そこで、社会問題に発展した「耐震偽装事件」についてふれてみます。

姉齒元一級建築士がメディアに初めて登場した時、うつろな目で他人事のような言葉に、背後に巨大な悪が潜んでいる事を匂わせた。はたせるかな、次々に悪の連鎖が表面化、12月15日現在、耐震性能偽装が17都道府県75物件に及ぶという。マンションやホテルだけではなく、新たに耐震基準を満たす病院が、全国で36%にとどまるという。これらも彼らの関与であろうか。証人喚問の答弁を聞いていて、全員が責任転嫁に終始して、腹立たしい限りであった。その中に、日本E・R・I?という、民間確認検査機関が介在していた。建築確認を早く出してくれる事で業界では有名であった。また、2000年に施行された、「品確法」(住宅の品質確保に関する法律)のまやかし、として問題点を講座で指摘してきた。この制度は日米構造協議の外圧により誕生したそうですが、日本にも漸く住宅の性能表示制度が出来て、消費者保護が実現すると喜びました。しかし、実態は大手ハウスメーカーに都合の良い制度であり、

肝心の基本性能はゼロに等しいのです。まして、一番大切な「住み心地」に殆ど関心を払っていない。
さらに、この制度の一番の問題は、評価する機関が営利を目的に設立した民間の会社です。これらの会社の株主は大手ハウスメーカーです。日本E・R・I?もその子会社の一社です。自社の子会社に評価させて、いい家ですと売るので、消費者はよほどしっかりしないと今回のように泣きを見る事になります。

☆消費者の自己管理責任

入居者は、業者の責任を追及し、行政の支援を求めています。どうやら、多くの公的資金が投入されるようです。しかし、行政に責任の一端があるとしても、血税である事に国民は割り切れない気持ちでしょう。これで、今後個人のエゴや甘えを助長する事の無いよう「自己責任」を明確にすべきだと思います。問題のマンションは、相場価格より20~30%安い物件でした。安い理由があるわけで、安すぎる事に購入者は疑問を持つべきであったと思うのです。皆さんのご意見はいかがでしょうか。先人は「安物買いの銭失い」と戒めてきました。

◆消費者の責任

最早、危機(リスク)管理を自己責任とする時代になりました。今や「安全は唯ではない」事を自覚することです。「空気と水と安全はただ」というのは過去のよき時代の終焉を知り、個々人が賢明な消費者になる以外防衛策はないのです。その為のコストを惜しむと企業の策略にはまり、結果として健康や命の犠牲という、高い代償を払うことになりがちです。

◆管理とはなにか

<定義>事前障害除去活動であり、機会損失減少活動である。

行政や業界を責めていても問題の解決にならない。当塾では、こんな筈ではなかったと後悔しないように、消費者自身が「良品と悪品」を峻別出来る賢明な消費者になり、自己防衛する以外ないと訴えてきました。これは真の、消費者保護の立場に立ち、生活者の目線で活動しているからです。(次号へ続く)

いい家塾公開講座報告

株式会社大ス樹 山本 容子

去る11月16日、午後7時より新大阪の大ス樹ショールームにおいて、「NGO大阪ケナフの会」の呼びかけで、設立2周年記念として「いい家塾」の公開講座がおこなわれました。「いい家塾」ができるきっかけを作ってくれたのは大阪ケナフの会でした。約2年前に釜中さんが大阪ケナフの会の例会で30年前に制作された「木霊(こだま)」という映画を上映されたことでいい家塾が誕生したのです。おかげさまで昨年6月から講座が始まり、11月で第4期生が無事修了いたしました。回を重ねるごとに受講者も増え注目度が高まって来たのか、この公開講座ではマスコミの方も数名参加されていました。

この日の目的は、11月8日を「いい家の日」と制定したことと、三つの提言の発表でした。公開講座では釜中さんが(1)人間主権の「住宅基本法」の制定(2)悪法の建築基準法を廃棄(3)100年住宅で個人経済を豊かにし、良き家族制度の復活を提言しました。続いて、いい家塾の活動内容を各スタッフも日頃の講義内容の紹介を短い時間でしたがお話をいただきました。なんせ限られた時間でしたので、サポーターさんたちもすこしとまどいましたが、しゃべり始めるといつもの調子を取り戻し熱弁をふるっていました。

今回出場のサポーターは、設計の山田哲也さんと山岸飛鳥さん、大工の山本啓二さん、大ス樹の山本容子でした。

講座修了後 話題のアスベストや電磁波の質問なども出て みなさん建築の現状に関心を持っていただけたのではないかと思います。残念ながら構造計算偽造の話はまだマスコミに出てなかったので話題にはなりませんでしたが、やはり鉄筋コンクリートは問題が多い建物ですね。

その後ケナフの会の方や参加された方達といつもの居酒屋さんでたのしく情報交換させていただきました。関係者のみなさんありがとうございました。



吉野山バスツアーのご案内～平成 18 年 3 月 26 日 (日)

(株) 山本博工務店 山本啓二

今回は日本三大(人工)美林の一つに数えられている吉野杉の美林を訪ねます。吉野杉を育てる、いわゆる人工林は、室町時代に日本で初めて吉野郡川上村で始められました。以来、村の基幹産業として人と自然が共生しながら丹念な森林の維持管理が行われています。見学場所として「山幸彦のもくもく館」を選びました。吉野林業の歴史や木材の役割、森林が環境にどのように役立っているか等、さまざまな資料が展示されており、映像での紹介もしています。

見学のあと、お昼時には「しいたけ狩り」を楽しんでいただきます。生産者の井上さんは、「日本原木しいたけの会」の代表です。自然木のくぬぎ、ならの木にきのこの菌を打ち込み栽培する、従来からの方法に今なおこだわり続けており、安心しておいしく食べてもらいたいとの一念で頑張っておられます。安全な食物のみ供給しているオルターというネットワークの方々にも認められているシロモノです。

昼食後は森林浴です。樹齢100年以上のすばらしい吉野杉が立ち並ぶ森の中を散歩されますと、人口育林の発祥地である吉野林業の歴史がうかがえます。少し早いのですが、吉野桜が咲いていたらラッキーですね。



次の案内は、家具の製作、販売をしているお店です。ここは主に天然木、一枚板の大きなテーブルや吉野丸太の椅子など、吉野ならではの材料を使用しています。製作工場を見学したり、自然乾燥している加工前の原板を見ていただきます。

以上のスケジュールの後、郷土の産物を販売している「道の駅」へ立ち寄ります。多くの方々の参加を呼びかけています。詳細は近くなりましたらお知らせします。お問い合わせは「いい家塾」本部まで。

CFZ(セルロースファイバーZ工法) 高槻岩井邸訪問記

(有) ミドウ通商 大谷康男

快晴に恵まれた初秋の10月2日の日曜日、阪急高槻駅に集合。総勢33名。一路岩井邸を目指し移動。岩井邸は閑静な住宅街の一角にありました。敷地68坪、延建50坪の立派な二世帯住宅でした。木の香りいっぱいの2階リビングに上げて頂き、施工者の増田工務店さんを加え全員が木目も鮮やかな床にペタリ。CFZ開発者の山本順三さんの司会で、岩井様の奥様からCFZを選んだ経緯から、ご説明を頂きました。

穏やかな柔らかな語り口から出たサプライズに一同びっくり！3年前焼失したソーラーハウスの恐怖。「今度こそは失敗が許されない」という固い決意。家についての熱心な研究の中でのCFZとの出会い。暑かった今年の夏でも殆どクーラーの要らない〔ナチュラルな生活〕。日中は窓を開け、風を一杯部屋に入れ快適な生活。暑がりのご主人のためにクーラーを使ったのは5～6回だったとか。愛猫と犬のため優雅な生活ゾーンの確保。施工者の増田様からも、工事中も涼しさを感じた。CFZの良さを再認識。絶対これはいいですよ、と力強いエール。

この説明の間、天井の懐かしい羽根扇風機とカウンター上の扇風機からやさしい風が。エアコンはあるが知らん顔。もう11時、外は相当暑いのに、大勢が隙間なく座っているのに暑さを感じさせない優雅な空間。暑いはずの屋根裏のロフトが一番涼しいと聞いて一同またまたびっくり！冬でも木の暖かさを感じた。ソーラーハウスにCFZが勝ったという岩井さんの感想に山本順三さんがにっこり。奥様のご説明の後は、ご主人からも快適な生活をお聞きして、ちょっぴり羨ましくなった私でした。

一同感心して岩井邸を辞し、高槻市市民会館に移動。昼食会をはさんで次に、断熱屋を名乗る山本順三さんからCFZの説明会。質疑応答もあり、今日はいいい日だったと感じながら、なごやかに散会しました。

「快適」を考える

一級建築士事務所・明月社 山岸飛鳥

最近、10年落ちとは思えないピカピカの中古車を見つけて、これが究極のエコカーだと一人悦に入っている。で、このエコカーにルーフキャリアを載せたいと思って、車で10分の某カー用品店に寄り道した。普段は自転車で行く距離なのだが、あまりの寒さにガソリンを炊いて出かけたのがよくなかったらしい。ササーと値段だけ見て帰ろうとしたら、立体駐車場の警備員の様子がおかしい。ボタンを押す操作盤に向かって、何人かがアレコレ言っている。いや～な予感がしたら、案の定コッチへ来て、「立体駐車場が動きません」と言う。・・・・・・ うごかない?? 修理の連絡をしていますから云々、結局30分ほど待たされてどうにか動き出したのだが、最後の言い訳がふるっていた。「寒くて動かなかったようです。」

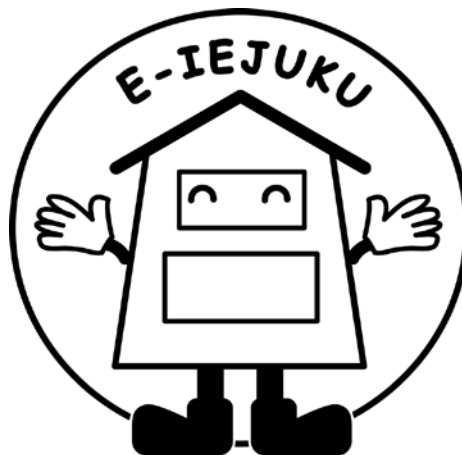
うーん、冬になったらオート○○の立体駐車場は止まるらしい。

やはり、手で代替のきかないものは、怖い。機械は壊れる、電気は止まる。そういうこともある、と覚悟して生きていかないと。

「快適」を求めた代償は、けっこう高くつくかもしれない。

卒業生の感想 あれこれ

家というものは、すごく大切なことが見えていないところにあるんだなあということを実感 / 知らない人と一緒に勉強できて嬉しかった / 自分は設計士ですが、若い世の中の経験が少ないため、説得力がなく、意図がお客様に通じないことが多いので参加させて頂いた。自分と同じ団塊ジュニアにも‘いい家塾’を紹介したい。



編集後記

お気づきでしょうか。今号に、いい家塾のシンボルマークが登場しました。そうです。題字の左に仁王立ちしている彼です。このマーク、先日卒業された4期生の池田真佑良さんに無理を言って作ってもらいました。ありがとうございました。池田さんは絵画教室などで活躍中です。ホームページをご覧ください。

<http://www5f.biglobe.ne.jp/~mayuraya/>

こうした、塾生の皆さんの活動とのクロスオーバーも、いい家塾の楽しみのひとつ。近況報告や、他の塾生にお知らせする情報など、ぜひお寄せ下さい。